



## 周産期医療シンポジウムの開催 危機にある但馬のお産 ～安心して産み育てるために～

現在、但馬地域の周産期医療は危機的な状況にあり、これを打開するために開催された検討会議の報告や今後の但馬地域の周産期医療がどうなっていくかについて市民の皆さんに理解を深めてもらうため、シンポジウムを開催する。

### 1 但馬地域の周産期医療の現状

但馬地域では民間でお産の出来る医療機関がなく、3つの公立病院（公立豊岡病院、公立日高医療センター、公立八鹿病院）で、8人の医師が年間約1400件の分娩を取り扱っている。一人の医師が取り扱う分娩数は全国平均の1.6倍であり、過酷な勤務状況が続き、医療崩壊の危機に直面している。

妊婦にとっても、分娩施設が限られていることや里帰り出産が制限される場合があること、近年の高齢出産に伴うリスクへの対応が不十分であることなど、このままでは、安心して産み育てることが難しい状況になっている。

#### 〔分娩取扱状況〕

病 院 名	H18	H19	H20	H21	H22
公立豊岡病院	708(4)	694(4)	696(4)	793(5)	798(5)
公立日高医療センター	410(3)	381(2)	337(2)	349(2)	352(2)
公立八鹿病院	396(3)	319(2)	345(3)	198(2)	216(1)
計	1,514(10)	1,394(8)	1,378(9)	1,340(9)	1,366(8)
医師1人当たりの取扱件数	151	174	153	149	171

カッコ内は年度末医師数

### 2 シンポジウムの概要

#### (1) 日 時

4月7日(土) 午後1時30分～午後4時

#### (2) 場 所

豊岡市民プラザ ほっとステージ(大手町 アイティ7階)

#### (3) 内 容

基調講演

「過疎地の周産期医療を巡る状況」

三重大学医学部産科婦人科学 池田<sup>ともあき</sup>智明教授

但馬こうのとり周産期医療センター検討会議 報告書の解説

検討会議会長 中貝宗治(豊岡市長)

パネルディスカッション

「これからの但馬の周産期医療について」

パネラー

三重大学教授・産科医師

池田智明さん

豊岡市医師会・小児科医師

赤松<sup>りょう</sup>亮さん

元公立豊岡病院看護部長・助産師

森本<sup>ななえ</sup>七重さん

中貝豊岡市長



コーディネーター

兵庫県理事・但馬長寿の郷長 細川<sup>ゆうへい</sup>裕平さん

(4) 主 催

豊岡市

(5) 後 援

但馬県民局・豊岡市医師会・公立豊岡病院組合

〔問合せ〕豊岡市健康福祉部健康増進課 TEL 0796-24-1127